

地元事業所の協力を得て朝陽小全児童に年賀はがきが贈呈された



年賀状送る楽しみを

弘前

日本郵政 朝陽小にはがき贈る
東西部連絡会

年賀状でやりとりする喜びを知ってもらおうと、日本郵政東西部地区連絡会は1日、弘前市の朝陽小学校（斎藤昭校長）の全児童に年賀はがきをプレゼントした。手紙による子どもたちの心の交流促進のため、年賀状のやりとりで手紙の楽しみや喜びを体験してもらおうと日本郵便の「手紙教育用年賀（サンキュー♡年賀）」。

同連絡会では昨年からは管内各校に学区内の事業所から協力を得て、積極的に寄贈している。

弘前茂森町郵便局の乳井隆秀局長と弘前本町郵便局

の高木しのぶ局長、同連絡会の山崎誠郵便・物販担当副統括局長が同校を訪問。企画に賛同した沢田内科医院とアート不動産、弘前こぎん研究所の協力で用意した540枚を児童に手渡しした。はがきは1人につき枚ず

つ配られる。児童を代表して受け取った6年生の赤平心陽さん（11）は「おはあちゃんに旅行に行こうねと書きたい」と笑顔。対馬淳くん（12）は「年賀状をあまり送ったことがなかったけど、新年

の気持ちを伝えるために書きたい」と話した。高木局長は「はがき一枚でいろんな思いが伝くという喜びを知ってもらえれば、心の糧になるのでは」と期待した。

（斎藤葵）

陸奥新報 令和2年12月4日掲載 陸奥新報社提供

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは堅くお断りします。